

平成 30 年 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査まとめ

平成 30 年 12 月値（平成 30 年 2 月 26 日発行）

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域の経済動向が、全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しています。事業活動の参考にしていただければ幸いです。

調査データ出先

調査名（実施機関）	調査対象	調査対象期
西播磨地域景況調査（西播磨県民局）	管内中小企業者等 4 業種 141 社	平成 30 年 10 月～12 月期
兵庫県の経済雇用情勢（兵庫県）	兵庫県の中小企業	平成 30 年 10 月～12 月期
小規模景気動向調査（全国商工会連合会）	全国約 300 商工会による調査	平成 30 年 12 月期
たつの市中小企業景況調査（たつの市商工会）	管内 30 事業所	平成 30 年 10 月～12 月期

たつの市商工会

目次

I 産業全体の業況の推移

II 調査範囲別景気動向

III 業種別経済状況

① 製造業

② 建設業

③ 小売業

④ サービス業

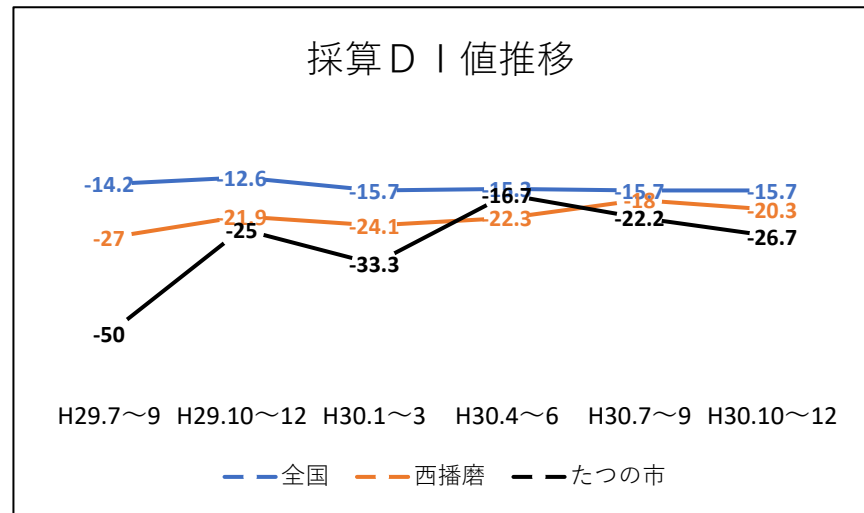
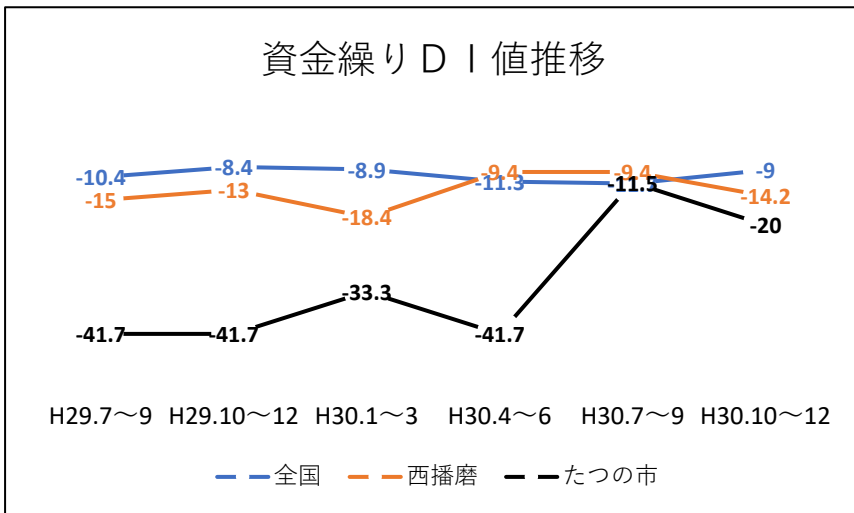
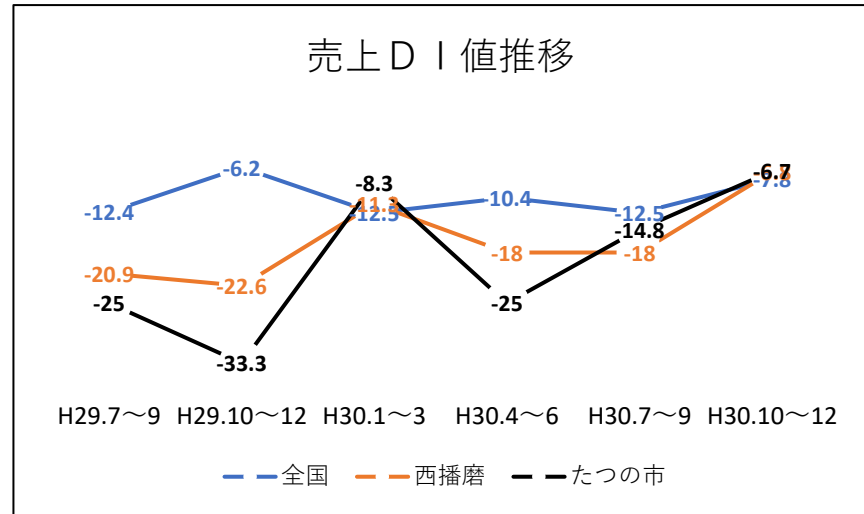
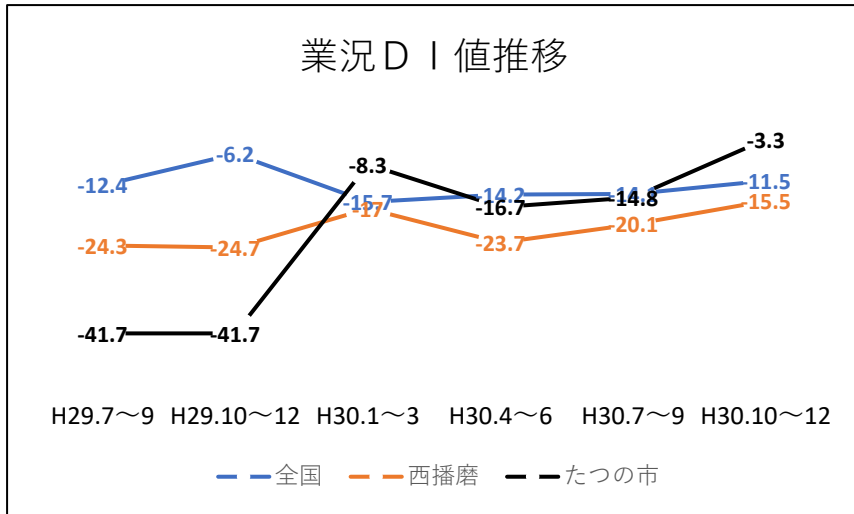
⑤ 業種別 D I 値比較

V 雇用状況

VI 西播磨管内の企業倒産件数及び負債金総額

VII 総括

I 産業全体の業況の推移 <DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す>



<概要>

前回調査時と比較すると、全国、西播磨、たつの市、のいずれも業況D I、売上D Iは改善している。業況D Iはたつの市が最も改善しており、売上D Iについては、全国、西播磨、たつの市の業況は概ね同等の値を指している。一方、資金繰りD I、採算D Iはいずれも、たつの市、西播磨、全国の順で悪い値を示しており、特にたつの市の採算D Iは2調査期連続で悪化しており、全国、西播磨と比較して悪化の水準が高い。

II 調査範囲別景気動向

<全国>

- ・ 前回調査時と比較すると、業況D I、売上D I、採算D Iが小幅に改善したが、採算D Iは横ばいの値を示している。年度末の資金需要に対し各地の金融機関の貸出姿勢も良好であった。

<兵庫県>

- ・ 県内の経済・雇用情勢は、緩やかに拡大している。企業の業況判断は足もと改善したが、先行きは悪化すると見込んでいる。個人消費は緩やかに持ち直しており、輸出は足もと弱含んでいる。設備投資は高水準で推移し、生産活動は持ち直している。労働需給は引き締まっており、賃金は上昇傾向にある。

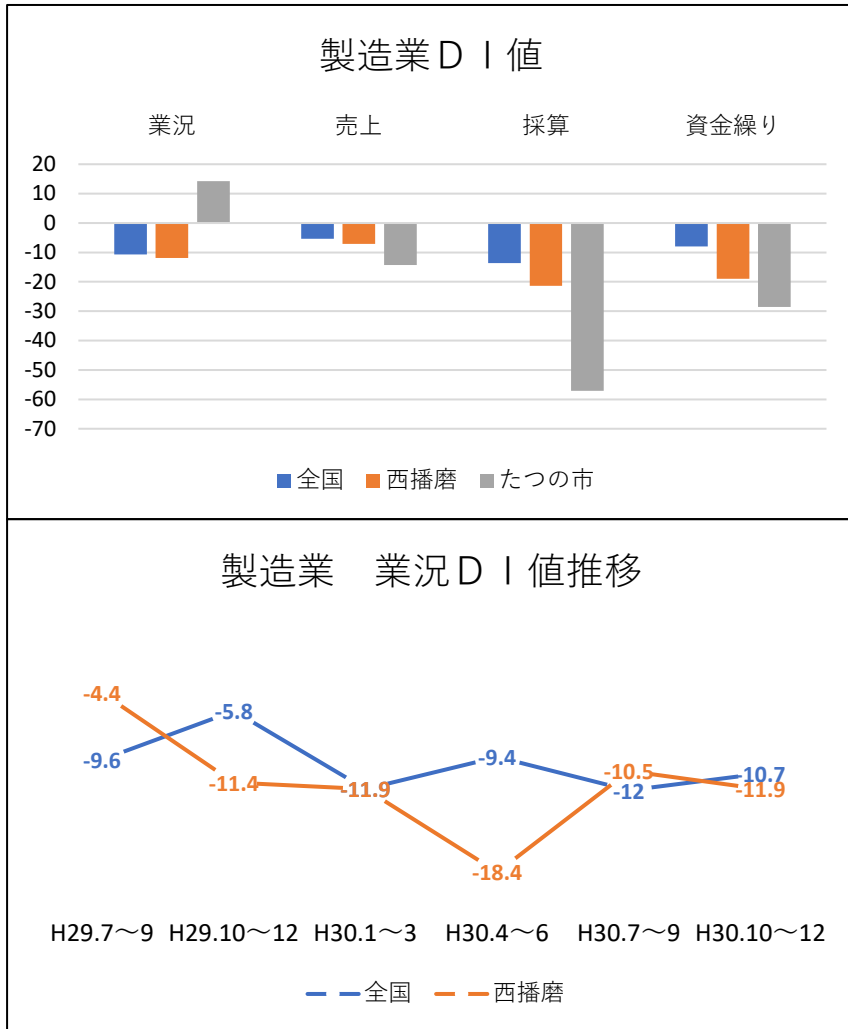
<西播磨>

- ・ 業況、売上D Iは回復傾向である。一方で資金繰り、採算D Iは悪化しており、たつの市と同様の傾向を示している。

<たつの市>

- ・ 業況D I、売上D Iは前回調査時より改善している。一方で、資金繰りD I、採算D Iは悪化しており、市内事業者が利益の確保に苦慮している様子を見て取れる。

Ⅲ 業種別経済状況 ① 製造業



<全国>

全国的には業況 D I 値はわずかに回復している。一部の食料品製造業では、原材料の仕入価格が安定したことや年末年始に向けた受注増があった。また新たな機械の導入により生産性が向上した事業所がある一方、化学関係の資材価格の高騰や、米中関係の悪化が逆風となっている。

<兵庫県>

食品製造業者によると、輸入品価格の上昇や消費の冷え込みのための競争激化により、見通しは良くない。金型・プレス加工は、自動車関係部品の堅調な推移と新型車両の生産に向けた発注が見込まれる。工作機械関係部品は、中国の景気減速により汎用インバーター関係や半導体関係の需要が落ち込んでおり、全体として売上は減少している。

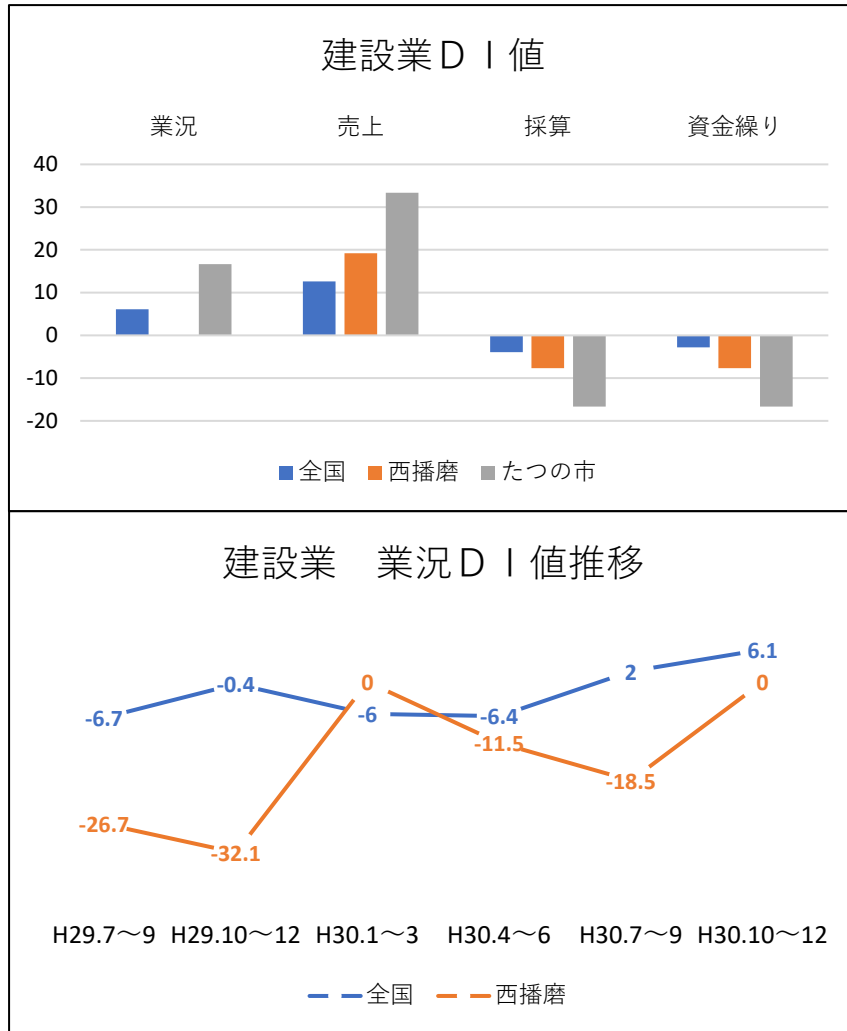
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して 1.4 ポイント悪化している。売上を除き、全国より D I 値が下回っている。

<たつの市>

業況は「好転」が上回り全国、西播磨より良い。一方、採算、資金繰りは全国、西播磨を大きく下回っている。

② 建設業



<全国>

D I 値は昨年 9 月調査時以降回復基調である。災害工事の復旧工事による需要も引き続き堅調である。消費税増税前の駆け込み需要も増えつつあり今後もこの傾向は続く。

地域格差により、県外や遠方での受注も増えている。人材不足により採算を圧迫する傾向にもある。

<兵庫県>

土木工事は官民ともに昨年並み、建築工事は官民とも改築改修工事等が増加している。材料費の高騰や職人・技術者不足により厳しい状況が続いている。今後、オリンピック関連需要が本格化した場合に、材料価格高騰や職人不足が更に進む懸念がある。

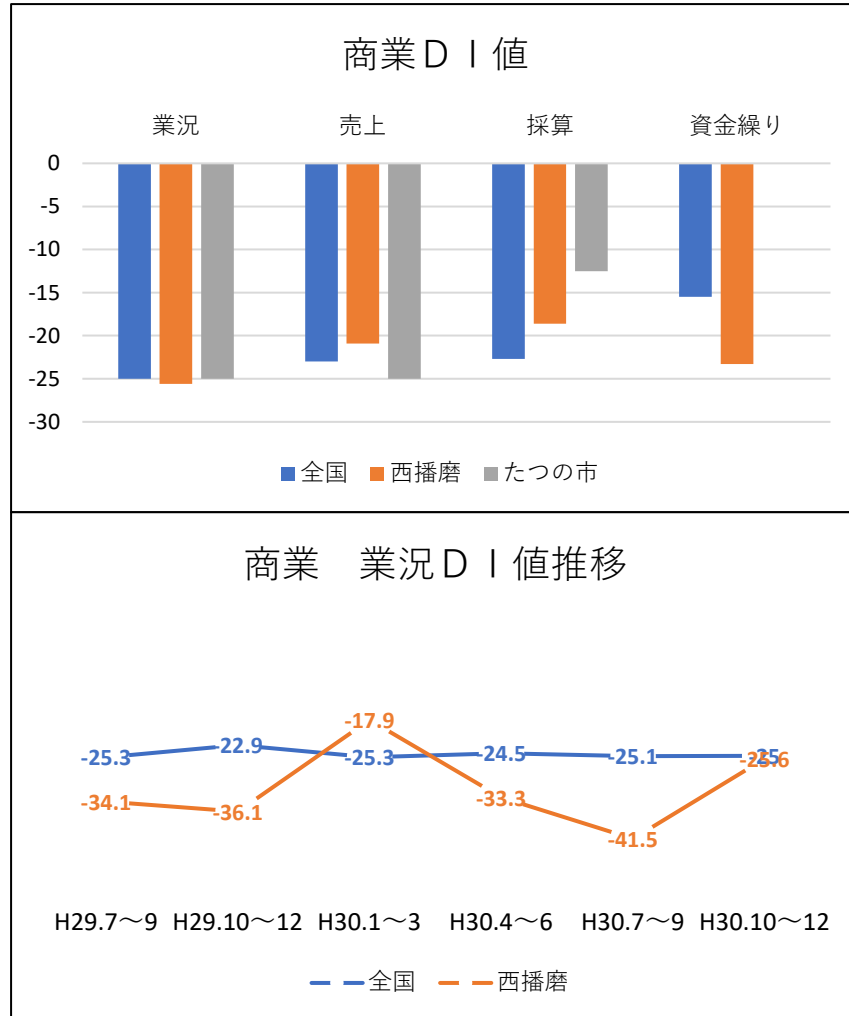
<西播磨>

D I 値は前回調査時と比較して 18.5%改善した。採算、資金繰りはいずれも全国の値を下回っている。

<たつの市>

業況、売上については全国、西播磨を上回っている。一方で、採算、資金繰りは全国、西播磨と比較して良くな、人件費、資材価格の高騰が企業収益を圧迫している。

③ 商業



<全国>

全国的に業況は横ばいである。年末の需要で食料品販売業や、暖房器具の需要も動きがあった。消費税の増税懸念に加え、暖冬、大型店・ネット通販との競合から、取り巻く環境は厳しく、改善を示すコメントは少ない。

<兵庫県>

県内小売業者によると、景況感は普通である。日常的な売上は比較的堅調だが、冬物の立ち上がりが遅かったことや、長期の年末年始休暇による人口の流動が地元消費の減少につながり、マイナス要因となった。

雇用については、適正規模であったが、人件費は上昇している。

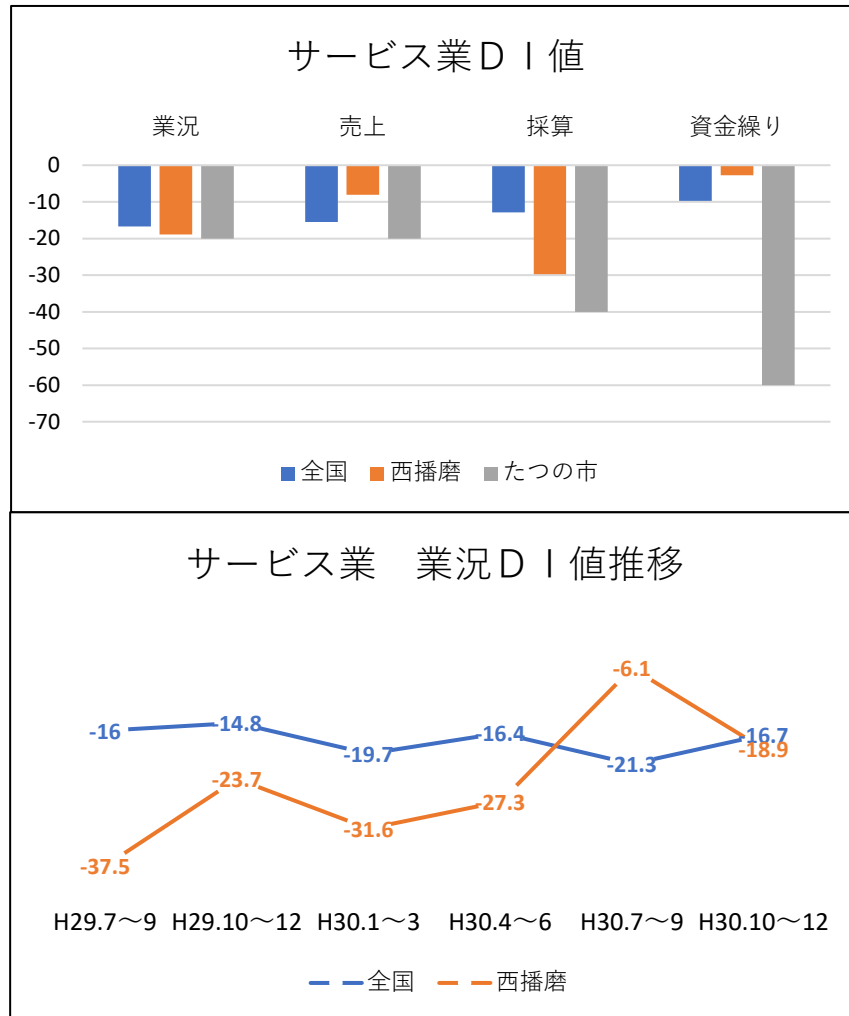
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して $\Delta 41.5$ から $\Delta 25.6$ に 15.9 ポイント改善しており、全国の水準に回復した。

<たつの市>

業況、売上 D I は西播磨、全国と同様に低く、厳しい状況が続く。採算 D I は全国、西播磨の D I 値を上回り、資金繰り 0 すなど長期化する停滞感への慣れを感じる。

④ サービス業



<全国>

年末年始の各種イベント需要から、理美容業において利用者の増加が見られた。また宿泊業においても伸びている地域がある。しかしながら、人手不足については依然として改善されていない。運輸関連は燃料の高止まりから厳しい状況が続いている。

<兵庫県>

県内サービス業者によると、景況感は良くも悪くもない。消費増税に伴う軽減税率の取扱いやキャッシュレス決済によるポイント還元についての、店頭での混乱や経理処理の煩雑さを懸念する声が聞かれる。

不動産業については、都市部を中心に、今後上昇が見込める。

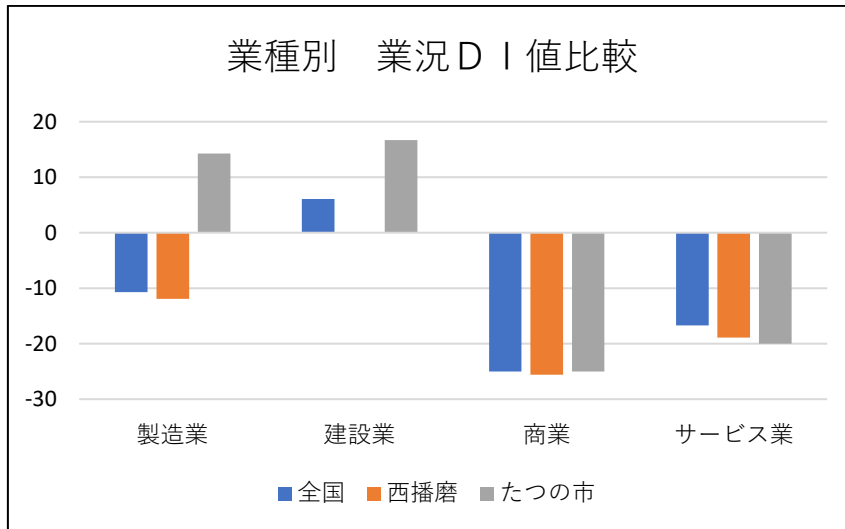
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して△6.1 から△18.9 に 12.8 ポイント悪化している。業況は、前回調査時は全国を上回っていたが、今回調査で再び全国の業況を下回った。

<たつの市>

すべての調査項目で「悪化」を示しており、特に採算及び資金繰りが悪く、利益の確保に苦心している。

⑤ 業種別 D I 値比較



製造業は全国、西播磨での景況はマイナスであるが、たつの市では、好況が不況を上回っており、一部の下請け事業所での受注が好調であることがうかがえる。

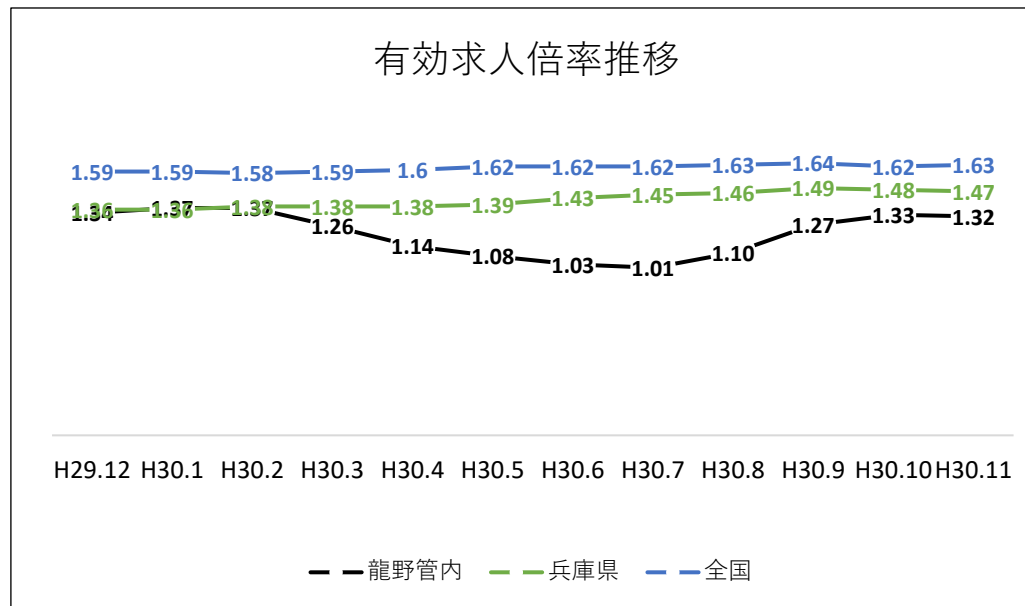
建設業については、全国的には災害復旧工事やオリンピック等を控えたインバウンド効果で好調である。たつの市においては一部のリフォーム業や設備工事業で好調である。

商業、サービス業については全国、西播磨、たつの市のいずれも不況を示しており、特に商業の D I が他の業種と比較して悪い。

V 雇用状況

平成30年11月期の有効求人倍率は、全国1.63倍、兵庫県1.47倍、龍野管内1.32倍となっており、全国、兵庫県、龍野管内すべての地域で10月期と比較しほぼ横ばいである。業種別では特に製造業、建設業での不足感が強く、今後もこの傾向が続くことが予想される。この1年の推移では、全国的及び西播磨地域は緩やかに人手不足感が強まっている。龍野管内においては平成30年7月には1.01倍を示し充足感があったが、8月以降上昇に転じ、人手不足感が強まっている。

たつの市商工会の調査では、商業では充足感があるが、製造業、建設業では人手不足感が強い。

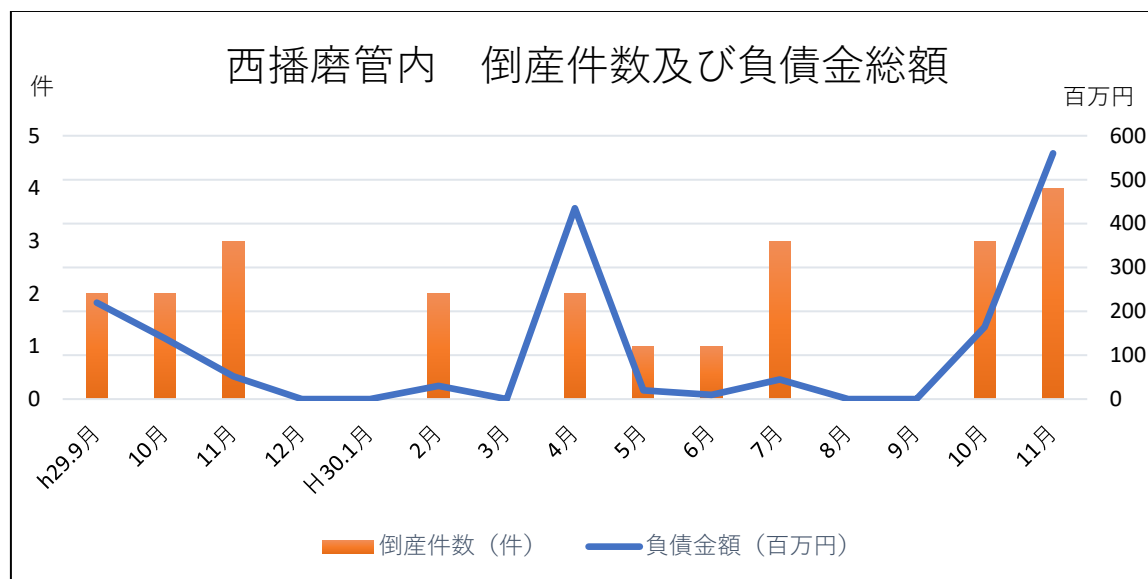


有効求人倍率 : 求人数 ÷ 求職者数 (例 仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

VI 西播磨管内の倒産件数及び負債金額総額

西播磨の倒産件数は昨年8月、9月は0件であったが、10月3件、11月4件と年末に向け増加し、負債金額も10月164百万円、11月560百万円と11月には平成29年9月以降では最高金額を記録した。

兵庫県下の倒産件数は、平成30年9月期22件、10月期47件、11月期38件となっている。負債増額は、9月期21億53百万円（対前年同月比3.8%減）、10月期34億24百万円（対前年同月比91.3%増）、11月期33億75百万円（対前年同月比13.4%減）となっている。



Ⅶ 総括

全国的な業況は停滞感から一転、小幅に改善している。暖冬による恩恵を受ける地域があるものの、天候不順や自然災害による景気低迷の誘発で小規模企業の景況感は一進一退である。全国的に降雪が少なく、車による移動がスムーズなことが集客につながっている業種がある反面、雪を必要とする観光業や宿泊業では客足が減少し、水産加工業についても天候不順の影響を受けている。

たつの市の業況判断DIは平成29年末までは全国、西播磨の水準を下回っていたが、平成30年以降は全国と同等の水準となり、いずれも西播磨の水準を上回っている。これは、たつの市が山陽道幹線沿いであるため、姫路を中心とした播磨地域や、京阪神からの需要を獲得できる点や、このような地域性から、市内の鉄道、国道、高速道路の沿線で人口が下げ止まりしていることが要因と推測される。売上については前回より改善し、いずれも上昇した全国、西播磨のDIと同等を示している。一方で資金繰り、採算については全国、西播磨の数値を下回り、特に、商業、サービス業の業績悪化が顕著である。

業種別では、商業、サービス業、製造業、建設業の順で業況が悪く、前回調査時と比較して製造業、建設業の順位が入れ替わった。製造業については原材料高や人件費高の影響があるものの、一部の元請け事業者の業績が引き続き好調であり業況は良好であるが、採算、資金繰りは厳しい。建設業については全国、西播磨とも回復傾向であり、たつの市については、全国、西播磨より更に高い業況を示している。一方で、資材高、人手不足の影響から採算、資金繰りは良くなくいずれも全国、西播磨の水準を下回っている。これは当地域の建設業については、下請け事業所、対消費者向けの事業所が多く、企業間競争等により、引き合いはあるが利益が確保できていない状況であることが要因であると思われる。商業、サービス業では変わらず厳しい状況が続いており、特にサービス業ではすべての調査項目で、全国、西播磨を下回っている。地方における高齢化が、当地域における個人消費の落ち込みに拍車をかけている。

雇用状況は、全国の状況より指標は良好であるが、龍野管内でも引き締まりに転じており、引き続き製造業、建設業を中心に人手不足感が強い。

以上